

教育研究業績書

2026年2月28日

氏名 宮内惇至

研究分野

研究内容のキーワード

経済学、経営学

金融・ファイナンス（金融システム、決済システム、リスク管理、金融規制・監督）

授業・教育向け業績

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	PRJ該当	招待論 文該当	概要

学術理論的研究業績

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	PRJ該当	招待論 文該当	概要

実務的業績

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	PRJ該当	招待論 文該当	概要
銀行勘定の金利リスクに関する評価方法と政策対応	単著	2026年2月	『SBI大学院大学紀要』第13号			金利の上昇の下での銀行勘定の金利リスクに関して、リスクの評価手法、邦銀の抱える金利リスクの現状、リスク管理の在り方、政策対応の必要性などについて検討した。
予想信用損失引当（ECL）と企業価値担保権に基づく貸出モデルの変革とリスク管理	単著	2025年5月 2025年7月 2025年11月	TRMA講演 事業再生研究機構講演 事業再生研究機構講演			予想信用損失引当（ECL）と企業価値担保権の導入が邦銀の貸出のビジネスモデルに及ぼす影響について、先行する米国の実情を踏まえて分析。とくに再生型倒産を前提とするキャッシュフローベースの貸出モデルへ転換する道筋を展望し、こうした貸出モデルの転換により産業の新陳代謝の活発化、生産性の向上、経済のレジリエンス改善などが見込めることを提示。また、金融機関などの実務家が準備すべき与信管理体制の在り方についても検討。
企業価値担保権と予想信用損失引当（ECL）の活用—貸出のビジネスモデルの転換に向けて—	単著	2025年2月	『SBI大学院大学紀要』第12号			企業価値担保権や予想信用損失引当（ECL）の導入が邦銀の貸出のビジネスモデルに及ぼす影響について、先行する米国の実情を参考にしつつ、考察した。とくに再生型倒産を前提とするキャッシュフローベースの貸出モデルへ転換する道筋を展望し、こうした貸出モデルの転換が産業の新陳代謝活発化、生産性向上、経済のレジリエンス改善などに果たす役割を検討した。
金融政策変更への備えで必要な銀行勘定の金利リスク管理の点検	単著	2024年3月	『金融財政事情』		○	金利上昇を前に、金融機関の銀行勘定の金利リスク計測上の課題を整理した。とくに、長期の金融緩和のもとで増加した流動性預金・コア預金の金利リスク管理上の扱いについて、金利上昇局面での滞留状況や金利追随率の観点から確認すべき点を分析した。
最近の海外における銀行混乱と国際的な規制監督	単著	2024年2月	『SBI大学院大学紀要』第11号			2023年春に欧米銀行で発生した一連の破綻で明らかになった金融システムの問題点を整理したうえで、足許の当局の動きを展望する。さらに、規制監督上の課題への対応のあり方について、①要求資本水準の適正化、②規制と監督とのバランス、③金融機関の反応を勘案した制度設計、④公的資金の活用、などの視点を提示する。
国際金融規制の未来	単著	2023年12月	『証券アナリストジャーナル』			国際金融規制の歴史を踏まえて、足もとの問題点を整理し、今後の展望を示した論考。
相次ぐ欧米金融システムの混乱が示す国際的な銀行規制の問題点	単独	2023年9月	国際金融情報センター（JCIF）月例セミナー			国際金融規制の歴史展開を概観したうえで、2023年春の欧米での一連の銀行混乱の原因を整理し、世界金融危機以降に構築された国際的な規制監督の枠組みの課題を分析した。また、混乱後の各国当局の対応も整理した。さらに、一連の規制改革が期待されていた効果を発揮できず、市場の脆弱性を助長するなどの欠陥を露呈している点を踏まえて、改善の方向性を探った。
The Global Bank Rules that Sent Financial Systems into Turmoil - Macroeprudential Tools are Mulfuctioning. Not the Time for Tighter Rules	単著	2023年8月	“Discuss Japan” Japan Foreign Policy Forum, 外務省		○	「欧米金融システムの混乱が示した国際金融規制の問題点」（2023年5月）をベースに英訳改編して、外務省系の海外有識者向けWeb広報誌に掲載。

欧米における金融機関破綻とリスク管理（規制・監督面の論点）	複数	2023年5月	東京リスクマネージャー懇談会セミナー（TRMA）		欧米における金融機関の連鎖的破綻について、主に金融機関のリスク管理担当者、金融当局者、コンサルタントなどを対象に、パネル・ディスカッションに参加した。基調プレゼンテーションでは、世界金融危機以降に構築された国際的な規制監督の枠組みや、各国の特徴的な規制監督体制の問題点について整理した。
欧米金融システムの混乱が示した国際金融規制の問題点	単著	2023年5月	『金融財政事情』	○	2020年春のコロナ禍発生時における欧米金融市場の混乱、2023年春のシリコンバレーバンクなどの米国中堅銀行の相次ぐ破綻やクレディスイスの救済合併などを踏まえて、世界金融危機以降の国際金融規制改革の問題点と改善の方向について考察した。一連の規制改革は当初期待されていた効果を発揮できず、市場の脆弱性を助長するなどの欠陥を露呈している。金融混乱の下での新しい規制の機能不全を整理し、失敗の根本的原因と改善の方向を探るとともに各国当局の動きを展望する。
ポストコロナの事業再生と引当 ～予想信用損失モデルが整える事業再生と事業性貸出の環境～	単著	2023年3月	『資本市場アップデート』		コロナ禍での事業支援の副作用として、企業の過剰債務、エバーグリーン貸出が増加しており、資源配分の効率低下や生産性の低下を招くとして世界的に問題視されている。「ゾンビ企業」は定義が恣意的なため問題を捉えるには不適當で、予想信用損失引当（ECL）のように貸出の経済価値の毀損を評価するアプローチが問題の定量的把握には優れている。効率的に事業再生が機能する米国ではエバーグリーン貸出やゾンビの問題は起きていないが、これを支えているのがECLと全資産担保である。わが国でも中小企業の事業再生の円滑化に向けてこれらの施策を進めるべきで、それが新陳代謝を促進や生産性の向上につながる。
オルタナティブレンディングを巡る動き ～ビジネスモデルの展開、ビッグデータと機械学習、課題と規制・監督～	単著	2022年3月	『資本市場アップデート』		オルタナティブ・レンディングは、中国では重要な信用基盤となっているほか、米国でもプレゼンスを高めている。足許ではガバナンスの不全により苦戦するケースと優れたCXや低コストを武器に好調なケースに分かれている。ビッグデータの蓄積と機械学習の改善により、信用評価の精度が改善しており、とくに、短期の予測、環境変化への対応力、短い信用履歴への対応などで比較優位を発揮する。一方、説明可能性が低い、モデル作成に主観的判断が入るため属人的要素が強い、実装後も継続的な検証を要する、等に留意が必要である。監督政策面では、説明可能性、データの品質・バイアス、テストとモニタリング、リスク管理、人権問題などが論点となる。とくに、BigTechについては、独占・市場支配力、金融システムの安定性、既存金融機関との公平性などに配慮する必要がある。
COVIDショックを踏まえた国際的な金融規制の動き～市場型の金融仲介への対策が焦点に～	単著	2021年3月	『資本市場アップデート』		コロナの感染拡大を受けて20年春の欧米金融市場は混乱し、脆弱性を露呈した。とくに、いわゆるDash for Cashとマーケットメーカーの機能不全により、市場流動性が広範に低下、資金市場が逼迫したほか、NBFI（非銀行の金融仲介）をめぐる流動性の相互連関性が混乱を拡大した。FSB（金融安定理事会）はNBFIの耐久力改善に向けて国際的な取り組みを本格化しており、ファンド、マージン、市場流動性などの問題を検証している。金融危機後の一連の金融規制改革は、市場流動性低下の一因となったうえ、ストレス下で所期の効果を発揮できなかった。副作用の大きい規制の見直しが必要だがFSBは後ろ向きな姿勢を示している。